

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071200491
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホーム友愛
所在地	和歌山県紀の川市畑野上272 (電話) 0736-77-2277

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年3月31日	評価確定日	平成20年5月16日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	水道光熱費(月額)	330 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.77 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年福祉を幅広く展開し、地域に根ざしている皆楽園が運営するグループホームの1つで、開設されて10年目になります。のどかな立地の中、特別養護老人ホームとデイサービスが隣接され、ホーム内は広々としており、手作りの季節感あふれる温かい飾りや置物が飾られています。管理者、職員はコミュニケーションが良く、馴染みの職員でのケアがなされ、理念に掲げられているように誰もが利用したいホームを目指しながら意見を出し合い、入居者に生き生きと過ごしてもらえるよう日々のケアに取り組まれています。実際に入居者は椅子に座りながらでも出来る事を中心に食事の準備や後片付け、洗濯物干し等職員と一緒に進められています。また、毎日の入浴や隣接施設での行事、ドライブ等の楽しみ事を通してゆったりと過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった栄養面での栄養士によるチェック、記録を細かくするなど記入方法について職員で話し合いながら改善に向けて取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎回自己評価については全職員に自己評価票を配布して記入してもらい、会議で意見を出し合いながら全員で時間をかけて作り上げられています。自己評価を行う事で、日々のケアの見直し、振り返りの良い機会としています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、区長、民生委員、市役所職員が参加する運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ、参加者から情報を得たり、要望や意見を機会としています。会議を通して、職員の意識も高まり、支援への広がりにもつながっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料もあえて持ってきてもらうようにしており、家族がホームに来られた際に出来るだけ日頃の話をしていきます。また運営推進会議や家族懇親会等にて意見や要望を出せる機会を設け、意見等については会議時に話し合い、運営に反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の特養とデイサービスとの合同で夏祭りを開催し、地域の方にも参加して頂いたり、保育園児の慰問による、隣接施設、デイサービス合同の運動会を敷地内で利用者とともに進めています。また、近所の方から野菜の差し入れを頂いたり、ホームから差し入れをしたり日常的な付き合いを行っています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者全員が地元の方で地域とのつながりを大切に考えられており、「地域の中で生き生きと、共に笑顔で暮らす」という言葉を理念にも加え、法人3つのグループホームで職員が意見を出し合いながら理念を再検討し、作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分の親だったら、自分だったらどんなホームに入りたいかを念頭に置きながら、日々のケアの中や会議の際に理念に基づいた話し合いをしている。また、玄関はもちろん事務所やホーム内等職員がよく目にする所へ掲示し、常に意識出来るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の特養とデイサービスとの合同で夏祭りを開催し、地域の方にも参加して頂いたり、保育園児の慰問による、隣接施設、デイサービス合同の運動会を敷地内で利用者とともにやっている。また、近所の方から野菜の差し入れを頂いたり、ホームから差し入れをしたり日常的な付き合いを行っている。	○	法人全体として地域交流を行っているが、ホームとしても回覧板を活用して地域の情報を得たり、ホームの情報を発信できる取り組みの検討が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題については職員で話し合いながら改善に向けて取り組まれている。毎回自己評価については全職員に自己評価票を配布して記入してもらい、会議で意見を出し合いながら全員で時間をかけて作り上げられている。自己評価を行う事で、日々のケアの見直し、振り返りの良い機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、民生委員、市役所職員が参加する運営推進会議では、ホームの活動報告をはじめ、参加者から情報を得たり、要望や意見を機会としている。会議を通して、職員の意識も高まり、支援への広がりにもつながっている。		

グループホーム友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と顔馴染みであり、不明な事や疑問点はメールや電話で相談し、入居者と一緒に出向いて行ったり、連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料もあえて持ってきてもらうようにしており、ホームに来られた際に出来るだけ日頃の話をしている。また、毎月、今月・来月の行事予定の他、健康状態や日常生活ぶりなど詳しく書かれた報告をしており、金銭報告については出納張のコピーを送付し、ホームに来られた際にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際や運営推進会議にて意見や要望を出せる機会を設け、意見等については会議時に話し合い、運営に反映している。昨年は家族懇親会も実施されている。	○	家族が集まる懇親会の継続や家族アンケートの実施を通して、家族等の意見や要望を表せる機会づくりが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動については最小限に留められており、管理者は職員と話し合う機会を多く持ち、職員同士も助け合いながら離職を防ぎ、馴染みの職員でのケアが実現されている。新しい職員が入る場合は日勤帯で互いに馴染んでもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月の法人内研修、グループホーム連絡会、市主催の外部研修や他の外部研修に出来るだけ参加するようにしており、研修後は報告書を作成し、会議の際に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県のグループホーム連絡会に加盟しており、研修や交流を通じてサービスの質の向上を図っている。職員相互研修を通して地域の他のグループホームとの交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでにいきなりの入居は無く、入居前に見学に来てもらい、他の入居者と一緒に過ごして雰囲気を見てもらっている。入居後は不安にならないように職員間で話し合い、家族に相談し、協力を得ながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で漬物や梅干のつくり方など教えてもらい、時には入居者から職員へのしぐさや表情について言葉を掛けてもらったりしながら、一緒に過ごし、共に支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で意向を把握する事に努めており、また、定期的にセンター方式の「私の気持ちシート」を使用しながら職員間で情報を共有し、話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を取り入れ、医師の意見も聞くようにしており、職員間では毎月ケース会議で意見交換を行い、より良く暮らすための本人に合ったケアプランが立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎に見直されており、毎月のケース会議でも全入居者についてカンファレンスを行い、1ヶ月毎の評価もされている。状態が変化した場合についても随時見直されている。		

グループホーム友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助や個別の外出、早期退院に向けた支援など要望に応じて柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続されており、ホームへ往診に来て頂いたり、こちらから通院したり、緊急時も連携がとれる体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで出来る最大のケアについて説明をし、その都度意向を確認している。重度化の場合については家族、医師、職員で話し合いながら対応を決定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを良く知り、その方に合った言葉掛けに配慮している。個人情報については、事務所内の書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きる時間や夜寝る時間、家事参加などその日の体調や気分に合わせて、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。		

グループホーム友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座って出来る事を中心に野菜の皮をむいたり食事の準備やお膳拭きなど出来る方は一緒にしている。職員も同じ食事を一緒にとりながら楽しい雰囲気になるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日の入浴を基本としており、希望やペースに添って一人ひとり支援している。入浴を拒否される方についても声掛けを工夫しており、体調に合わせて足浴の支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除、タオル干しや洗濯物たたみ、裁縫、花や野菜を植えたり、水やりや草抜きなどを通して利用者の経験や今ある力を発揮できる場面づくりを支援している。隣接の特養やデイサービスのイベントにも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、ドライブに出掛けており、同敷地内の特養やデイサービスに行ったり、同法人の他のグループホームに行ったり出来るだけ外出する機会を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアを実践しており、玄関にはセンサーを付けて外出を察知している。外出の際は一緒に付き添うようにしており、隣接の特養との連携もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1、2回法人全体で防火訓練を実施しており、夜間想定避難訓練や消火設備の点検や避難経路の確認をしている。運営推進会議でも話し合わせ、地域の避難場所としても届けている。		

グループホーム友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の流れの中で食事摂取量は毎食記録し、水分量については大まかに把握されており、必要な方のみ記録をしている。栄養面については法人の栄養士に定期的に献立をチェックしてもらい、アドバイスを受けている。また、一人ひとりの状態に合わせてきざみ食や、これまでの習慣に合わせて茶粥や小豆粥なども提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は大変広く、リビングには季節を感じる手作りの飾りが飾られており、ひとりで過ごせる量のベンチが置かれていたり、キッチンが対面になっており、茶碗を洗う音やご飯が炊ける匂いを感じる事の出来る空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れた馴染みのものを持ってきてもらうようお願いしており、テーブルや椅子、テレビ、家族に写真など持ってきてもらい、一人ひとりに合った居室づくりを支援している。		